



# がま研 かわの版

第6号

平成15年3月1日

発行

筑波山がまの  
油売り口上研究会

昨年十二月一日に研究会恒例の歴史探訪その後忘年会が行われました。あいにくの小雨模様ながら、真壁のボランテイアガイドさんの説明を受けながら、しばし古い蔵の街並みを散策しました。しかし真壁があつた赤穂浪士と深い関係があることを知る人は多くないかも知れません。そんな歴史について、貴重なご投稿をいただきました。

## 真壁 笠間の赤穂浪士

田中 秀朗

真壁氏は、関ヶ原の戦いで佐竹氏とともに豊臣方に組したため秋田に移封されたが、織田信長弓衆であつた浅野長勝の養子長政は夫人が秀吉夫人ねねの妹であり、反淀三成派であつた。しかし関ヶ原の戦いでは、秀吉の義弟でありながら、徳川方に組し、しかも功績があつたため、家康は感激して報償した。



画・大淵澄夫

移封となつたので、秋田封によつて主を失つた真壁氏家臣と、領地が倍以上になつて家臣を増強する必要に迫られた浅野家の事情が一致して、真壁氏旧家臣を抱えることになつた。

### 二代目長重

のとき更に笠間に移封されて、真壁は廃藩、陣屋経営となり、三代目長直のときに赤穂に移つたのである。

こうした関係で、赤穂浪士四七士名のなかに三十三名もこの地方と縁続きの人がいたのである。

三十三名の中には大石をはじめ何組かが親子、兄弟で加わっている。間喜兵衛は長男・次男の親子三人、小野寺十内は従兄弟ほか一族六人が、文筆家の吉田忠左衛門もまた息子・実弟など一族四名が加わっている。

それでは討ち入りに関して伝わるいくつかのエピソードを紹介してみたい。

### そばは食べなかつた

いよいよ決行はお茶会の次の日、夜込みを襲うため十二月十五日寅の刻(午前四時)と決定。集合場所も目立たぬよう吉良邸から少し離れた本所林町の堀部安

兵衛宅に打ち揃うことになつていった。大石は小野寺十内とともに駕籠で宿を出、通り道だつた堀部弥兵衛宅に立ち寄り、すでに集まっていた同士たちと子の刻(0時頃)まで弥兵衛の奥さんが用意した勝栗・昆布・菜鳥(寒鴨)など合戦の時と同じ肴で祝い酒を酌み交わしてから堀部安兵衛宅に向かつたという。

### 緋ちりめんの下帯

そのときは皆思い思いの衣装だつたが、鎖かたびらなど嚴重に着込んだ上から家紋のついた黒小袖と定め、暗闇の中の行動の合印として、両袖に二、三寸の晒木綿をつけ、右袖に氏名を書きつけていた。死んだ時のため肌付金として小判一枚を襟の中に縫込み、別に小銭十文を袂に入れ、白縮緬の袴がけ、懐には焼米と餅を少し紙に包み、香袋も持つていたし、討入り直前に含む気付菜も持つていた。

持にふんどしはモッコ風に紐をつけて首からつるせという大石の指示であつた。普通のふんどしでは、出血多量で死ぬと筋肉が弛み、男のシンボルがはみ出して、無様な姿になると、大石が外科医から聞いたことを徹底させた。老人は白羽二重、若い者は緋のちりめんのモッコふんどしをして、股引、脚半、陣草鞋を履いていた。

### 娘の進言が役立つ

七十七歳の堀部弥兵衛は黒羅紗の羽織をはおつていたが、一人娘の幸に「室内の戦いでは九尺の槍は長すぎないか」と言われて切りつめた。槍を小脇に抱えて

くるつと背を見せると、羽織の裾が燕の尾のように風に翻ったといわれた。また弥兵衛の意見から十二本の槍はみんな短く切りつめてあったので、実戦で大いに動きやすかった。

### 陣太鼓は打たなかった

かねてから決めてあったとおり、寅の刻に表門組二十三名と裏門組二十四名に別れて、犬の遠吠えにも気を配りながら、静かに本所一ツ目の吉良邸に向かった。この時、大高源五と岡十次郎が一番乗りで、五十五歳の原惣右衛門は梯子から足を滑らせて転落し、軽い捻挫をしたという。そして、吉田忠左衛門が書いた口上

書を一丈程の青竹に結わえて玄関前に立てた。

### 持筆ものの竹林唯七

四十七士のなかの変わり種を一人紹介して終わります。それは竹林唯七。彼は明国の孟子の六十三代目の子孫で表門組二十三名の中に編入されていた。討ち入り後は、毛利家に預けられた人と共に処刑されたが、切腹の折り作法通り脇差しを腹に当てた時、介錯人の榊莊右衛門の刀がそれて、肩に傷を与えただけだった。その場に倒れた唯七は起きあがり威儀を正して「静かに」といさめ首を打たれたという。

皆さん今年もよろしくお祈りします。

今年がガマはガマでも、少し変わったイベントを企画しておりますのでお知らせいたします。

茨城県麻生町出身の演歌歌手奈良崎正明さんが昨年六月に出した『筑波のガマ太郎』という演歌がオリコンヒットチャートの演歌の部で75位にランクされました。我々筑波山の麓に住むものとしては、この曲を全国的に知れ渡るようなヒット曲にするためと、この曲のヒットにより低迷している地域経済を少しでも活性化させることができればという思いで「奈良崎正明歌謡ショー」を企画いたしました。

研究会の忘年会の折りに、林会長をはじめ皆さんにお話し、この歌謡ショーを研究会で協賛していただくことになりました。

また、この歌謡ショーに研究会を代表して宇野大世話人が「筑波山ガマの油売り口上」を演じてくださることに決定しており、併せて心より感謝する次第であります。現在チケットを発売中ですが、今のところ順調です。会員の皆様にもこの趣旨をご理解いただくと共に、宇野大世話人を応援する意味からもご協力いただきたく、ご案内させていただきます。

### 歌謡ショーの概要

1. 日時 平成15年4月20日(日)  
会場12:00 開演13:00
2. 場所 土浦市民会館大ホール
3. タイトル 奈良崎正明の演歌とトークショー
4. 内容 第1部 奈良崎正明の演歌とトークショー  
第2部 ゲスト歌手 大川あけみ  
ガマの油売り口上名人 宇野 昭  
第3部 奈良崎正明オリジナル演歌
5. 入場料 全席3,000円
6. 主催 奈良崎正明土浦・つくば後援会  
協賛 筑波山ガマの油売り口上研究会  
歌謡ショー実行委員会事務局長 村竹儀昭

※チケットはがま研の総会時(4月12日予定)にお求めになれます。よろしくご協力ください。

## 本年度講習会成功裡に終わる

### 会長手作りの修了証書発行



「すごいのもらっちゃった！」

平成十四年度のがまの油売り口上講座が林会長の指導のもと開催され、熱心な受講者が席を埋めた。三回以上の出席者には、会長手作りの修了証書が手渡され、みな大感激といったところ。

今回は業界(?)初の講座テキストが編集され、口上文句から歴史まで網羅されている。また、古今東西の口上を集めた口上全集(その一)も同時に発行され、希望会員には本年度総会時に、配っていただけ。



テキストと口上全集  
林 正一会長 編集

「ひょうたん」が「酒を飲む？」

清水 泰清

ガマ口上の際に机の上のひょうたんから口に水を含む先輩の姿を見てかつこいななど思い、ひょうたんそれも『がま』の絵のついたひょうたんが欲しくなりました。宇野先生に話したら『種をあげるから自分で栽培して、うまくできたらそれに絵を描いてあげる』と三粒の種をいただきました。去年の五月です。家庭菜園で多少の心得はありましたが、ひょうたんは初めてです。いただいたのは大ひょうたんなので、『千成りひょうたん』も植えました。スイカやカボチャの隣に縦横二mのパイプ棚を作り、芽の出た苗を大切に育てました。

八月盆明けの頃、見事に棚からぶら下がるひょうたんを見に、近所の方々が集まってきて、出来振りを誉めてくれました。しかし、「これからが難しいんだよ。」という農家の方の言葉が少し気になりました。

大ひょうたんが二〇個、千成が三〇個位できたので、美野里町のひょうたん博物館に行き、収穫の方法、種抜きと乾燥の仕方を教わりました。ひょうたんの果実はとても重く、果実の重みでつるが引き下げられ、そのままにしておくとするを痛めたり果実が落下するので「柄」の部分（ここは繊維質で非常に強い）を太めのロープでぐるぐる巻いて支柱に縛ります。どんなに重い果実でもこの方法で充分支えられますが、問題は「柄」の部

分の乾燥具合と白っぽく色のわって来たひょうたんの熟し具合です。実が完全に熟しきっていないと種を抜く段階で殻が壊れてしまふのです。

毎日棚の下から熟し具合を観察してましたが、雨が三日続いた翌朝、覗いてびっくり実の上部が所々黒ずんでいたのです。病気です。綺麗なひょうたんの表面が悲しいほど変わってしまいました。その後、切り取り・穴あけ・種抜き・乾燥の段階で壊したり潰したりと、初心者の不手際続出。十一月に完成した時は、大ひょうたん四個、千成八個に減っていました。宇野先生にお願ひして、一番格好の良ひょうたんに筑波山とがまの姿を描いて頂きました。座布団を敷いたら一段と落ち着きました。

中に水を入れるので、その前に臭い消しにとお酒を入れて振り回し、一晩おいたらびっくり仰天。お酒が無いのです。また一合入れました。これも一晩でほぼ綺麗に消えてしまいました。どうもがま君が飲んでしまふようで、ひょうたんのがまは一段と色つやを増して輝いてました。

水を口元まで入れてみると、四ツ入りしました。口をして置いたら、五百ミリくらい減っていました。お酒を飲んだがま君は酔い覚めの水を飲んだようです。

今年から机の隅で私の口上を見守ってくれるがま君を大切にしていきたいと思えます。そして、二年目の今年はもう少し上手に大ひょうたんを育て、沢山の千成ひょうたんを仕上げるつもりです。

## ベストの状態でガマ口上

泉 修平

… 宴会場での口上成功の秘訣は…

一月十二日、知人からの依頼で四国は丸亀市内のホテルで行われた結婚披露宴での「ガマ口上」。前日からホテルに向き入念な準備、打ち合わせ。瀬戸内の海辺に建つこのホテルは瀬戸大橋も一望できロケーションは最高。準備として①会場の確認（場所、会場の広さ、口上を演じる十分な場所が取れるかどうかの確認）

②控室の確認（会場までの距離の確認）

③前もって送り届けた荷物の確認（中身が破損してないか否かの確認）

宴会場での「ガマ口上」の成功の可否は演じる時間のタイミングにあると思っています。これまでの経験から、乾杯の音頭から十分から十五分経過した時に演じるのがベスト。二十分以上経過すると、酒に弱い人は酔っ払って口上の内容を理解してくれません。また雑談で会場がザワザワして、「ガマ口上」を聞こうと楽しみにしている人

たちの邪魔になります。皆がほろ酔い機嫌で、しかもみんなの視線は口上に一点集中、いいところでは拍手があり、演じている方もリズムに乗って最高の「ガマ口上」を演じることが出来るのはこの時間。それには事前に進行係と十分な打ち合わせしてスケジュールを組む。今回はその甲斐あって自分でも納得できる最高の演技を醸し出すことが出来ました。



私が「ガマの油売り口上」にふれたのは、筑波のガマ祭り、鉢巻・袴にたすきがけ、腰に刀の出で立ちで、『さあ、さあ、お立会い。御用とお急ぎでない方は・・・』の口上でした。その芸の迫力にしみりと感心させられました。以来、聞きかじりや筑波風土などから、それらしきものを拾い出して、宴会などでやって喜んでいたものでした。

それから十数年、平成十一年だったと思いますが、新聞で『小町の館』でガマの油売り口上の講習会がある記事を読んで、受講の手続きをしました。当時、小町の館の館長をされていた林正一先生が講師で、計四回にわたって指導をされました。林先生は、上は白の紋付、袴は縞でした。その演技力のすばらしさに敬服すると同時に、こんな近くでの口上は初めてでしたので、ただただ感心させられるばかりでした。

そのうち『ガマの油売り口上研究会』いわゆる「ガマ研」なるものが発足して、色々な行事や歴史探訪などを通して、その中でも又、口上をご指導いただきました。

林先生はまず第一に、口上を徹底的に覚えること、次には、出来るだけ数多く機会を作り、人前で口上を述べることで、その間には何べんも何べんも練習すること

### 「ガマの油売り口上」の 出会いと全国大会参加について

渡辺 由正

とが上達につながることをだといわれました。

一昨年、平成十三年九月、伊奈町の『ワブステーション江戸』で、第一回の「ガマの油売り口上全国大会」が開かれることになり、どうしようかと迷いに迷っていたところ、宇野先生より「やってみたら」とアドバイスをいただいたので、出場申込をいたしました。それから、寝てもガマ、起きてもガマ、車に乗ってもガマ、風呂に入ってもガマ。それこそ、ガマ・ガマ・ガマの明け暮れでした。

十七名の出場者があって、それぞれの皆さんは、個性豊かで、立派な口上でした。何か自分だけが取り残されたような気がして、又一から練習しなくてはと思いましたが。

それから一年たった昨年は、筑波ガマ祭りの八月四日に、江戸屋旅館さん前の特設の舞台で、全国大会が開催されました。

参加者、実に二十三名。遠くは福岡・宮城からも出場があったように聞いております。

私の出番は十一番でした。自分の番が少しずつ近づいてくると、果たして与えられた五分間で、皆さんに聞いてもらえるような口上が出来たろうか、口上ばかりでなく、間の取り方、口上に合わせての体の動き、説得力などに留意してやらなければ、などの思いだけが空回りして、胸の動悸だけが高鳴っているのを覚えました。

ありがたくも、本戦に残らせていただき、感じましたことは、精神的なゆとりが持てるようになるためには、初心にかえっての練習を土台に、機会あるごとに人前で口上を述べて、その中に、落ち着きが見出せたらと思いました。

二度も続いて、全国大会に出場させていただき、口上を述べる機会を与えてくださった、会長の林先生、原先生、直接、口上に合わせて体の動かし方などの演技の基本をていねいにご指導下さった宇野先生、その他の役員の方々に心より感謝申し上げます。



#### 編集後記

三寒四温の今日この頃、花粉症の方にはあとしばらくのご辛抱を。  
今回は沢山の玉稿をお寄せいただき、編集者はうれい悲鳴を上げながら、何とか6月号の発行にこぎつけました。  
7月号は6月発行予定です。  
これからの季節、口上披露の機会も多くなると思われれます。アイデアや体験などお待ちしております。